

# Histological assessment of impact of ovarian endometrioma and laparoscopic cystectomy on ovarian reserve

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2013-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒田, 雅子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001386">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001386</a>

順天堂大学 博士(医学)

氏名 黒田 雅子

論文題名 Histological assessment of impact of ovarian endometrioma and laparoscopic cystectomy on ovarian reserve

(子宮内膜症性卵巣嚢腫と腹腔鏡手術の卵巣機能に対する影響の組織学的評価)

#### 論文内容の要旨

女性の卵巣内の卵母細胞数は年齢とともに減少し、32～38歳よりその減少率が加速する。また卵巣機能は、卵巣の疾患や手術などの医療行為によっても影響を受ける。我々は、子宮内膜症性卵巣嚢腫、腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術、および年齢が卵巣機能に及ぼす影響を、手術時に生検した正常卵巣と卵巣嚢腫壁に付着した正常卵巣の卵胞を観察し、組織学的に評価を行った。

インフォームドコンセントで同意を得られた子宮内膜症性卵巣嚢腫患者61人と子宮内膜症以外の卵巣嚢腫（良性卵巣腫瘍）患者42人の正常卵巣の一部を手術時に生検し、卵胞密度を計測した。また同時に、手術で摘出した卵巣嚢腫壁に付着していた正常卵巣組織を組織学的に評価した。

子宮内膜症群と子宮内膜症以外の卵巣嚢腫群は共に、卵巣の卵胞密度は年齢と相関し、年齢が進むにつれて卵胞密度の低下を認めた。35歳未満では、子宮内膜症群が子宮内膜症以外の卵巣嚢腫群より卵胞密度が有意に低く、Semi-quantitative scaleによる卵胞の形態学的評価でも有意な卵巣機能の低下を認めた。しかし35歳以上では両群に有意差を認めなかった。また手術で摘出した嚢腫壁に卵巣組織が付着している率は、子宮内膜症群で有意に高く、子宮内膜症群において卵巣組織の嚢腫壁への付着症例は、非付着症例と比較し嚢腫径が有意に小さく、その卵胞密度は高かった。

我々のデータから、子宮内膜症性卵巣嚢腫は、若年患者ほど卵巣機能へのダメージが大きく、更に子宮内膜症性卵巣嚢腫に対する腹腔鏡下嚢腫摘出術は、年齢に伴う卵母細胞の減少率を加速させる可能性が示唆された。ただし子宮内膜症は早発閉経の危険因子ではなく、子宮内膜症によって閉経時期が早まることはない。子宮内膜症群の卵母細胞の減少率は子宮内膜症以外の卵巣嚢腫群と比較して明らかに緩やかであり、子宮内膜症が存在する卵巣組織は、女性のエイジングに対する保護的な作用が存在する可能性が示唆された。また子宮内膜症性卵巣嚢腫のサイズが小さいほど、嚢腫摘出術による正常卵巣のダメージが大きく、かつ癌化や破裂などのリスクが少ないため、妊娠を希望する子宮内膜症患者に対して積極的な手術より不妊治療を優先すべきであると考えられる。